

**中国内モンゴルにおける日本語教育事情：
シリンホト牧業機械化学校の場合**

菅谷奈津恵

The current state of Japanese language teaching in Inner Mongolia:
A case of Xilinhot School of Livestock Mechanization

Natsue SUGAYA

平成20年（2008）
新潟産業大学人文学部紀要
第19号抜刷

中国内モンゴルにおける日本語教育事情 シリンホト牧業機械化校の場合

菅 谷 奈津恵

キーワード：モンゴル語母語話者、留学生、渡日前教育、日本語強化班、青年
海外協力隊

1. はじめに

国際交流基金の調査によれば、2006年現在、日本語教育は133カ国で行われ、学習者数はおよそ298万人に上る。中国の学習者は韓国（約91万人、30.6%）に次いで多く、その数は約68万人に達し全体の23%を占めている。その中でも、中国内モンゴル自治区は、東北三省（黒龍江、吉林、遼寧）とともに日本語教育の盛んな地域であるという（国際交流基金日本語国際センター2002；本田2001、2006）。

本学の海外指定校であるシリンホト牧業機械化学校（以下、牧機校）からも、毎年数多くの学生が本学に入学している。渡日前の教育体制を理解することは、入学後の留学生教育を向上させる上で重要である。本稿はそのための一資料を提供することを目的とする。以下ではまず、内モンゴル地域の日本語教育事情について文献資料を中心にまとめ、続いて、牧機校における日本語教育の現状について報告する。

なお、牧機校は正確には、既に2006年の合併によりシリントウ職業学院に組み込まれ、校舎も2007年10月中旬に移転している。ただし、「牧機校」という名称が定着していることから、本稿ではこれを便宜的に用いることとする。

2. 中国内モンゴル自治区の日本語教育事情

牧機校がある内モンゴル自治区は、その北側をモンゴル国、ロシアと接し、中国北部の東西に長く伸びた地域である。シリンホト市は、そのほぼ中央部に位置する。内モンゴル自治区という名称が示すように、中国国内のモンゴル族の大半が当自治区に住んでおり、街中の看板にも漢語（いわゆる中国語）に加えてモンゴル語が併記されている。ただし、中国の第五次全国人口統計（2000年11月1日）によれば、人口（約2376万人）の約8割を漢民族が占めているという。モンゴル族は2割弱（約403万人）であり、自治区全体の人口構成からは少数派となる。

モンゴル語は、語順や助詞など文法的に日本語との共通点が多い(李2000、2001)。かつ、中国のモンゴル族は漢語の知識も有するため、日本語は学習しやすい言語であるという認識が強いようである(呉・市瀬2007; 李1998; 本田2001)。これは、中国東北地域の朝鮮族における日本語教育とも共通している点である(本田2001、2005、2006)。以下の日本語教育事情の報告にも、日本語学習上でモンゴル語母語話者が有利であるという指摘が多く見られる。

泉他(2001)では、2000年8月に内モンゴル自治区で行われた日本語教師研修会の報告を行っている。参加研修生21名のうち、モンゴル語が母語の研修生は日本語レベルが高い傾向があったと記されている。また、教師間のレベル差が大きく、非常に高い日本語力を有する教師から、2週間の研修後でも「まったく話せない」ままの教師(泉他2001: 66)までがいたとのことである。

呉・市瀬(2007)は、内モンゴル民族大学(内モンゴル自治区通遼市)の日本語教育について報告している。これによれば、一般教育の日本語の受講生は1995年の開始当初は40人であったが、年々増加を続けているという。2007年現在、受講生は1398人、うちモンゴル族が935人(約67%)であるという。日本語学習者の増加傾向については、日本語とモンゴル語が類似しているため、学習しやすいことも一因であると指摘している。また、開講当初から日本語の授業を担当してきた呉は、直感的な指摘ではあるが、「モンゴル族学生は、発音もきれいだし、書いた文章も上手で誤用が少なく、総じて成績がよい」と述べている。

李(1998)は、自身の所属校である内モンゴル農牧学院も含め、内モンゴルの主要な日本語教育実施機関について報告している。その中で李は、日本語学習について、モンゴル語と日本語を対比して学ぶことが「歩く際の杖」となり、中国語と対比して学ぶことは「飛ぶときの翼」となるとたとえている。しかしながら、現時点ではその好条件が生かしきれていないとも述べている。第一に、使用される日本語教科書が中国語版であり、モンゴル語版ではないことである。第二に、適当な日蒙辞書がない点であるという。

森(2007a、2007b)の報告によれば、フフホトの大学教員を中心にモンゴル語で日本語教科書を作るプロジェクトが進められているとのことである。モンゴル母語話者が学びやすい教科書が作成されることを期待したい。

3. シリンホト牧業機械化学校における日本語教育

以下、筆者が2007年8月24日から28日に牧機校を訪問した際の聞き取り調査と、「青年海外協力隊ボランティア報告書」(吉井2006、2007a、2007b)を基にして、牧機校の日

本語教育の状況をまとめる。

3.1 学期と授業時間

牧機校では、2000年（平成12年）に日本語強化班が設置された。学生は基本的に寮生活を行いながら1年から2年日本語を中心に授業を受けている。

秋学期は9月（または8月末）から1月中旬まで、春学期は3月から7月中旬までの開講である。

学事日程は年によって変わり、その予定も変更が多く直前に決定されるようである。入学選考は行われておらず、新入生は新学期の始まる9月と3月の

年2回受け入れている。しかし、受付期限は厳密ではなく、新学期開始後も学生を受け入れている。遅れて入学した学生には放課後に補習を行っているが、レベル差を解消するのは容易ではないとのことである。

表1は授業時間を示している。1コマは110分であるが、途中で10分の休憩が挟まれるため、実質的には50分刻みで進行する。昼休みが長く、12時から14時40分までの2時間40分である。月曜から金曜は3限まで、土曜は2限までで、週に計17コマの授業が行われる。このうち日本語の授業は、初級（1年目）で10コマ、中級（2年目）で13コマである。日本語以外の科目では、コンピューターや英語、体育などの授業が開講されている。

表1 授業時間

1限	前半 8 : 00 - 8 : 50
	後半 9 : 00 - 9 : 50
2限	前半 10 : 10 - 11 : 00
	後半 11 : 10 - 12 : 00
3限	前半 14 : 40 - 15 : 30
	後半 15 : 40 - 16 : 30

3.2 クラス編成と学生

1クラス（班）は、30人から40人程度で編成され、基本的には同じクラスメンバーの持ち上がりで進められる。ただし、中途退学も多く、また、前述のように学期途中の入学者もいるため、学生数の増減により編成替えも行われるようだ。2007年8月末には14班から18班の授業が行われていたが、うち15班は人数減により閉じられ、16班、17班へ振り分けられたとのことである（「14班」、「15班」というクラス名は、強化班設立時から数えてそれぞれ14番目、15番目のクラスであることを表す。2007年9月開始の19番目のクラスは、「19班」となる）。能力別のプレースメントは、実施されていない。

学生のほとんどはモンゴル族であり、漢族などの他民族の入学者はわずかであるという。年齢、学習背景については、高校を卒業したばかりの者、大学卒業者、就業経験者等が混在している。基礎学力や学習意欲には個人差が大きく、クラス内の日本語レベル

差は大きいとのことである。筆者が授業見学をした際も、教師の発問に積極的に返答する学生から、板書を書き写しているだけの学生、教科書の違う箇所をぼんやり見ている学生（おそらく今どこを学習しているのかもわかっていない学生）まで様々であった。

3.3 日本語教師

2007年8月現在、現地日本語教師は7名おり、皆モンゴル族である。そのほとんどが日本での学習経験を持ち、全体に日本語運用力が高い。

また、2006年8月からJICA（独立行政法人国際協力機構）の青年海外協力隊員として日本人教師が1名派遣されている。この派遣教師には牧機校赴任前の2006年6月末に本学へ来校してもらい、留学生や教職員との顔合わせをすることができた。牧機校ではこれまでに日本人ボランティア教師を何名か受け入れたことがあるそうだが、JICAからの派遣は今回が初めてであり、本学側からの期待も大きい。

3.4 使用教材と授業内容

牧機校で使用されている日本語教材について、表2にまとめた。初級、中級ともに中心となっているのは、中国で広く用いられている「標準日本語」シリーズである。他に、初級の会話授業では、『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）の中国語版である『大衆的日語』も用いられている。中級では、読解教材として『新世紀大学日語』、聴解教材として『新大学日語：听力与会話』も使用されている。以上の教材には文法説明や新出語訳が漢語で付されている。

これ以外にも、「作文」や「日本事情」の授業があり、特に教材を定めずに担当教員の裁量で授業が進められるとのことである。9月から10月にかけては、本学の入試対策として志望動機の作文、面接練習も実施されている。表2にはないが、毎年12月に行われる日本語能力試験の準備として、10、11月には2級対策の教材も使用されているとのことである。なお、2007年には特に2級受験に力を入れ、試験前は表2の教材の使用を中断し、全ての日本語授業を能力試験対策に切り替えたとのことである。

現地教師による授業は、文法訳読法をベースにしたものであり、授業中の指示や説明は学生のレベルに合わせて日本語とモンゴル語、漢語が併用されている。青年海外協力隊員による授業は、日本人ゲストを招いてのインタビュータスク等、コミュニカティブな活動が取り入れられている。2007年度には、この隊員との協同により、牧機校と本学学生との交流プロジェクト（カルタ作りと一行詩コンテスト）も実施することができた。

表2 使用教材リスト

初級レベル	『新版中日交流標準日本語：初級上』人民教育出版社 『新版中日交流標準日本語：初級下』人民教育出版社 『大家的日語1』外語教学与研究出版社 『大家的日語2』 外語教学与研究出版社
中級レベル	『中日交流標準日本語：中級上』人民教育出版社 『中日交流標準日本語：中級下』人民教育出版社 『新世紀大学日語1』外語教学与研究出版社 『新世紀大学日語2』外語教学与研究出版社 『新大学日語：听力与会話1』高等教育出版社 『新大学日語：听力与会話2』高等教育出版社

4. おわりに

以上、中国内モンゴル地域の日本語教育事情を概観し、その事例の一つとしてシリントホト牧業機械化校の現状について報告した。今回の牧機校訪問を通して気づいたのは以下の二点である。

第一に、文字教育が本格的には行われていない点である。本学への入学者には、「お-よ」、「え-ん」などの見分けのつかない文字を書く学生も多い。こうした場合、入学後に字形に注意を促してもなかなか直らない場合が多い。もちろん、読み手に「通じる」ことが第一であり、達筆である必要はない。だが、正しい字形を初めに習えば、後々直す必要もないし、細かい部分を注意されて嫌な気分になることもないのである。また、漢字教育についても、読み・書きとも取り立てては行っていないようである。しかし、日本語の漢字は、音、訓と複数の読みを持つ場合が多く、非常に複雑である。かつ、中国の簡体字と日本の漢字は、その対応がわからぬほど字形の異なるものも多い。新聞記事や専門書など高度な内容の理解には、漢字知識が鍵となりうる。文字教育には、ぜひ力を入れて欲しいところである。

第二に、クラス内のレベル差が大きいことである。筆者が牧機校を訪問した際、積極的に話しかけてくる学生と「趣味は旅行です」という簡単な文さえ聞き取れない学生とが同じクラスにいた。適切なプレースメントを行うことによって、各学生のレベルに合わせた授業が可能となるのではないかと感じた。

今後は、シリントホト職業学院への本格的な合併により、日本語強化班の体制、授業内容も変化していく可能性がある。職業学院の日本語教師と連絡を取り合ってその教育体

制を理解し、本学の日本語教育レベル向上へとつなげていきたい。

謝辞：本調査は、平成19年度新潟産業大学特別研究「中国内モンゴルの日本語教育事情に関する研究」の一環として行われたものである。今回の調査にあたり、シリントホト牧業機械化学校の教職員の皆様にご協力を賜りました。また、新潟産業大学のバイカル先生、ナブチ先生からもご支援いただきました。ここに記して謝意を表します。

参考文献

- 泉文明・山口敏幸・岩田一成・長江春子・本田弘之（2001）「中国内モンゴルにおける日本語教育の展望：日本語教師研修会の現場から」『国際文化研究』5, 55 - 67. 竜谷大学国際文化学会
- 呉金霞・市瀬智紀（2007）「中国内モンゴルの少数民族教育と日本語教育：内モンゴル民族大学の場合」『異文化間教育学会第28回大会発表抄録』142 - 143 .
- 国際交流基金（2008）『海外の日本語教育の現状：日本語教育機関調査・2006年概要』（http://www.jpff.go.jp/j/japan_j/oversea/survey.htmlより電子的に入手）
- 国際交流基金日本語国際センター（2002）『日本語教育国別事情調査：中国日本語事情』中国人口信息网「第五次人口普查公报」<http://www.cpirc.org.cn/>
- 本田弘之（2001）「中国東北地方の少数民族と日本語教育」『杏林大学外国語学部紀要』13, 205 - 220 .
- 本田弘之（2005）「中国朝鮮族の継承語維持方略と日本語教育」『社会言語科学』8(1), 18 - 30 .
- 本田弘之（2006）「中国朝鮮族中学における日本語教育の選択メカニズム」『杏林大学外国語学部紀要』18, 107 - 117 .
- 森まどか（2007a）「青年海外協力隊ボランティア報告書・第2号」JICA
- 森まどか（2007b）「青年海外協力隊ボランティア報告書・第3号」JICA
- 吉井敏江（2006）「青年海外協力隊ボランティア報告書・第1号」JICA
- 吉井敏江（2007a）「青年海外協力隊ボランティア報告書・第2号」JICA
- 吉井敏江（2007b）「青年海外協力隊ボランティア報告書・第3号」JICA
- 李晶（1998）「内蒙古における日本語教育：フホトにおける教育機関を中心に」『留学生教育』3, 107 - 113 .
- 李晶（2000）「日本語教育における日本語と蒙古語の文法特徴についての一考察」『留学

生教育』5, 109 - 119.

李晶(2001)「日本語教育における日本語と蒙古語の『助詞』の使い方についての一考察」『留学生教育』6, 127 - 138.

